

会 議 要 旨

会議の名称	川越市立川越高等学校教育審議会第1回会議
開催日時	平成27年5月20日(水) 午前10時00分 開会 ・ 午前11時45分 閉会
開催場所	川越市立川越高等学校中会議室
議長(委員長・会長)氏名	会長 遠藤 克弥
出席者(委員)氏名(人数)	副会長 西澤 寛 石井 成人、伊藤 幾造、大竹 秀明、齋藤 清隆、澤田 隆、 土田 賢省、永瀬 慎二、永松 靖典、笛木 正司(10人)
欠席者(委員)氏名(人数)	新保 正俊 (1人)
事務局職員等職氏名	教育長 伊藤 明 学校教育部 部長 小林 英二、参事 山本 康義 学校管理課 参事兼課長 中野 浩義、副参事 内山 久仁夫 主幹 濱田 彰博 市立川越高等学校 参事兼事務長 大嶋 美紀夫、教頭 中村 光一
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長・副会長選出 3 委員紹介 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 諮問文及び趣旨説明 (2) 市立川越高等学校の現状と課題 5 連絡・報告 6 閉会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川越市立川越高等学校教育審議会第1回会議 次第 ・ 川越市立川越高等学校教育審議会 委員名簿 ・ 川越市立川越高等学校教育審議会第1回会議 会議資料

議 事 の 経 過

1 開会

2 会長・副会長選出

委員の互選により、会長には遠藤克弥委員が、副会長には西澤寛委員が選出され、会長と副会長が挨拶を行った。

3 委員紹介

出席委員による自己紹介及び事務局による欠席委員の紹介を行った。

4 議事

(1) 諮問文及び趣旨説明

教育長が諮問書を朗読し、遠藤会長に諮問書を手交した。

続いて事務局から審議会の趣旨等について、資料に基づき説明が行われた。

(2) 市立川越高等学校の現状と課題

市立川越高等学校の現状と課題について、同校教頭から説明が行われた。

上記の(1)(2)に関連して次のような意見等が示された。

【意見等の概要】

本日は平成16年度以降のデータしか示されていない。検証のためには、それ以前の志願状況や進路状況のデータが必要。また、「現状と課題」についても、数字やグラフでできるだけ遡って変化の見える形で示して欲しい。

市立高校は市教委の管轄下にあるので、県とは違った独自の色を出すことができるのが特色であるが、入試など、県に倣う部分もあるので、特色を出すのは簡単ではない。

独自性という観点から、市内にはスポーツの強い大学が複数あるが、そういう大学に優先的に入れる枠を設けることについて検討をお願いしたい。

商業関係の資格として、TOEICはビジネス系。TOEICの資格を得て来る学生は大学でかなり伸びて、就職も非常によい。高校側はTOEICの資格が入試で優遇され、大学もありがたい、こんな高大連携がよいのではないか。

市立川越高校は同窓会がしっかりしているので、卒業生が上級学校卒業後、こういった進路を取っているか追跡したデータがあると、伝統校であるだけに訴えるものがあり、教育の特色も見えてくる。

追跡データは意外と難しい。大学でも、卒業して2年後に教員になった者からは報告がなく、データは卒業時のままである。

これから東京オリンピックがあって成功させなければならないので、市立高校で英語力を伸ばしていくのはよい。商業系の人気が停滞気味とグラフに出ているので、商業学校を推し進めるべきではない。

東京オリンピックで市立高校の卒業生が通訳をやったり外国人を案内したりできるとよい。生きた英語を話せる生徒を育てるには、ネイティブの外国人の教員が必要。また、90周年では、80周年からやってきたことが出せるとよい。

息子が野球部に所属しているが、部活動を通してコミュニケーション力や我慢強さを身に付けている。野球部は週2回隣近所のゴミ拾いを自主的にやっているが、周りの方に対する感謝の気持ちを育てている。こうした教育も必要である。

中学生やその保護者が高校に何を求めている、どういう基準で高校を選んでいるかというデータがあるとよい。また、オリンピックは川越にとってものすごく重要。他校に先駆けて、市立高校で何か他と連携するとすごく面白い。

普通科4クラス、国際経済科2クラス、情報処理科2クラスで、目的をもって学校生活を送っている生徒が多いということで、商業に力を入れるという川越市としての政策的な部分も含めて、学校経営がうまくいっているのではないかな。

平成22年度の第2次将来構想懇話会提言は非常に幅広く多岐にわたっている。今回の審議会では、事務局は次回以降、意見が欲しい点にターゲットを絞り、それに沿った形でデータを資料として用意して欲しい。

全体として学校がうまくいっているということは倍率からもわかるが、そこで止まってしまえば進歩がない。進学率の上昇も、教員の指導があった上での話。将来構想なので、将来に向けて検討できるところについて意見を述べたい。

野球を一生懸命やっている生徒は、それを勉強に振り向ければできる。入学すれば一生懸命勉強するし、それなりのレベルになり、落ちこぼれがないのが市立高校。女子が多いので、男子生徒を多く入学させることができるとよい。

最終的には就職につながるのだから、TOEICをやって英語をマスターするような、大学から誘いが来るように、野球部全員で、英語で話をしようか、などという話も出ている。

うまくいっているという現状、うまくいっているけれど、将来的にはどの点を発展させるのか、このままでもうまくいくのかどうか、様々な社会的な要求もあわせて、今後審議していきたい。

〇 A部はここ数年、全国トップレベルを記録している。情報処理科の生徒が多いが、遠くても市立川越高校を選んで入ってくる現実がある。また、女性の委員がいないが、PTAの役員はお母さん方。意見を吸い上げて会議に反映させたい。

5 連絡・報告

第2回は7月17日(金)の午後6時から市立川越高校で開催する。

6 閉会